

学生の確保の見通し等を記載した書類 目次

(1) 新設組織の概要 -----	P2
①新設組織の概要（名称、入学定員、収容定員、所在地） -----	P2
②新設組織の特色 -----	P2
(2) 人材需要の社会的な動向等 -----	P2
①新設組織で養成する人材の全国的、地域的、社会的動向の分析 -----	P2
②中長期的な入学対象人口の全国的、地域的動向の分析 -----	P3
③新設組織の主な学生募集地域 -----	P3
④既設組織の定員充足の状況 -----	P4
(3) 学生確保の見通し -----	P6
①学生確保に向けた具体的な取組と見込まれる効果 -----	P6
ア 既設組織における取組とその目標 -----	P6
イ 新設組織における取組とその目標 -----	P7
ウ 当該取組の実績の分析結果に基づく新設組織での入学者の見込み数 -----	P7
②競合校の状況分析（立地条件、養成人材、教育内容と方法の類似性と定員充足状況）---	P8
ア 競合校の選定理由と新設組織との比較分析、優位性 -----	P8
イ 競合校の入学志願動向等 -----	P10
ウ 新設組織において定員を充足できる根拠等 -----	P11
エ 学生納付金等の金額設定の理由 -----	P11
③先行事例分析 -----	P11
④学生確保に関するアンケート調査 -----	P11
⑤人材需要に関するアンケート調査等 -----	P12
(4) 新設組織の定員設定の理由 -----	P13

学生の確保の見通し等を記載した書類

(1) 新設組織の概要

①新設組織の概要（名称、入学定員（編入学定員）、収容定員、所在地）

新設組織の名称	入学定員	編入学定員	収容定員	所在地 (教育研究を行うキャンパス)
北海道医療大学 臨床データサイエンス学環 (学部等連係課程実施基本組織)	15	0	60	北海道石狩郡当別町金沢1757

②新設組織の特色

本学環は、学部等連係課程実施基本組織として、看護・福祉・心理・リハビリテーション・医療技術等の医療系学部の連係により、医療・福祉現場の課題解決力と高度なデータ利活用力を併せ持つ人材の育成をめざすものである。

すなわち、本学環の教育課程を通じて、医療・福祉分野における地域や現場の課題を発見し、各種のデータの分析・活用により課題を解決に導くことができる能力と、多職種と連携・協力できるコミュニケーション力、さらには医療・福祉にかかわる高い倫理観や倫理的判断力を有する人材の育成をめざしている。

超高齢・人口減少社会を迎つつある北海道においては、医療・福祉のフィールドでデータサイエンスを活用できる実践的な専門人材の育成は急務であり、本学環はその中心的な役割を担うものと考えられる。社会的背景や地域のニーズ、国の方針に基づいて、既存の医療系学部が有する教育・研究資源を存分に活用し、次世代の医療人材の育成に取り組む。

(2) 人材需要の社会的な動向等

①新設組織で養成する人材の全国的、地域的、社会的動向の分析

日本社会は急速な少子高齢化と人口減少に直面し、地域医療や福祉サービスの持続的な維持・発展が深刻な課題となっている。特に北海道は、人口減少幅が大きく、65歳以上の人口の割合も全国平均を上回っており、超高齢・人口減少社会が眼前に迫っている。

社会構造が変化するなか、国は「第6期科学技術・イノベーション基本計画」（令和3年閣議決定）において「Society 5.0」の実現、さらには「医療DX令和ビジョン2030」等を通じて、AI・ビッグデータ等を活用した医療デジタルトランスフォーメーション（DX）の推進を強く打ち出している。これらの政策は、ICT・AI等を駆使したデータ駆動型社会の実現により、健康寿命の延伸や医療保険制度全体の運営コストの抑制、医療現場における情報入力の負担軽減など多面的な社会的利益の創出をめざしている。北海道においては、広域分散型の地域特性を有しており、医師の偏在が大きな課題となっている。遠隔での診療や服薬指導などの普及拡大が期待される現状に対して、医療DXは不可欠な基盤技術と位置づけられる。

一方で、医療現場でAI・ビッグデータを活用し、現場の課題解決やサービス向上に結び付けるためには、情報工学・データサイエンスの知識だけでなく、医療・看護・福祉・心理等の幅広い現場理解が必要不可欠である。厚生労働省「医療分野におけるAI活用推進懇談会報告書」においても、AI開発企業にも保健医療関係者が入り臨床現場の実情等を共有することが重要であり、データのアノテーションを行う人材の確保は必要不可欠であると言及されている。

しかしながら、経済産業省「IT人材需給に関する調査」（2019年）では、2030年には国内で約79万人のデータサイエンス・AI人材が不足すると推計されている。厚生労働省「医療分野におけるAI活用推進懇談会報告書」では、IT人材全体で約30万人、このうち、ビッグデータやAI開発を担う先端IT人材は5万人不足しているとされる。そういう状況の中、保健医療分野でAI開発を担う人材の確保は大きな課題である。本学環がめざす「医療・福祉のフィールドでデータサイエンスを活用できる専門人材」の育成は、上記で述べた課題の解決に寄与するものである。

②中長期的な18歳人口等入学対象人口の全国的、地域的動向の分析

本学環を設置する令和8（2026）年度から令和18（2036）年度までの18歳人口について、全国では10年間で1,092,664人から942,498人（令和8年度比86.3%）へ、北海道では41,168人から33,972人（令和8年度比82.5%）へ減少することが予測されている【資料1】。

大学進学者数については、「2040年に向けた高等教育のグランドデザイン（答申）（中教審第211号）」において、18歳人口が減少し続けるなかでも大学進学率は上昇することが予測されており、「中央教育審議会大学分科会将来構想部会（第13回）資料2」において、令和18（2036）年の北海道における大学進学率は54.4%と推計されている。すなわち、令和18（2036）年度に北海道においては、18,480人の大学進学者が見込まれることとなる。また、北海道は地元残留率が高いことが示されており、令和6（2024）年時点で65.3%となっている【資料2】。過年度傾向から今後10年間は、概ね60～62%程度で推移すると推計され、令和18（2036）年度では約11,000～11,500人が北海道内の大学へ進学することが予測される。以上の人口動向から、中長期的に本学環の定員を確保できると考えている。

【資料1】18歳人口予測（リクルート進学総研マーケットリポート）

【資料2】大学進学率・地元残留率の動向（リクルート進学総研マーケットリポート）

③新設組織の主な学生募集地域

本学環は北海道石狩郡当別町の本学当別キャンパス内に設置する。学校基本調査の「出身高校の所在地県別入学者数（令和6年度）」における出身高校の所在地県別の入学者数の構成比を見ると、73.5%が北海道内からの入学者となっている。他県等に比べ北海道内の高校からの進学者が極めて多い状況であり、本学環の主な学生募集地域としては、大学が所在する北海道が中心となる【資料3（別紙1）】。

「私立大学・短期大学等入学志願動向」（日本私立学校振興・共済事業団）によると、北海道に所在する大学の令和4（2022）～令和6（2024）年度の入学定員充足率は、それぞれ102.19%、98.54%、94.28%となっている。

学問分野（系統区分）の定員充足状況を見ると、本学環の学問分野である「保健系」については、令和4（2022）～令和6（2024）年度の入学定員充足率は、それぞれ99.28%、96.79%、91.04%となっている。また「理・工学系」については、令和4（2022）～令和6（2024）年度の入学定員充足率は、それぞれ104.35%、101.88%、99.39%となっており、いずれも高い充足率となっている【資料3（別紙1）】。

以上のことから、大学所在地である北海道を中心エリアとして、保健系及び理・工学系の分野に 관심をもつ高校生に対して広く募集活動を行い、本学環の具体的な教育内容、学生支援等の取組みを広報することにより、志願者・入学者を確保し、入学定員を充足することができると考えている。

【資料3】（別紙1）新設組織が置かれる都道府県への入学状況

④既設組織の定員充足の状況

既設学部・学科のうち、本学環の連係学部（看護福祉学部・心理科学部・リハビリテーション科学部・医療技術学部）についての過去5年間の入学定員の充足状況を【資料4-1】から【資料4-7】に、薬学部・歯学部についてはそれぞれ【資料4-8】、【資料4-9】に示した。

また、本学の既設学科における収容定員充足率と志願者数の推移は表1及び表2のとおりである

表1) 既設学科等の収容定員充足状況（令和6（2024）年5月1日時点）

学部	学科	入学定員 (人)	収容定員 (人)	在籍者数 (人)	収容定員 充足率
連 係 学 部	看護福祉学部	看護学科	100	400	475 118.8%
		福祉マネジメント学科	80	330	169 51.2%
	心理科学部	臨床心理学科	75	300	266 88.7%
	リハビリテーション 科学部	理学療法学科	80	320	394 123.1%
		作業療法学科	40	160	188 117.5%
		言語聴覚療法学科	60	240	222 92.5%
	医療技術学部	臨床検査学科	60	240	271 112.9%
薬学部	薬学科	160	1,000	933 93.3%	
歯学部	歯学科	80	480	436 90.8%	
全学	計	735	3,470	3,354	96.7%

※福祉マネジメント学科：編入学定員3年次10人

※薬学科：編入学定員2年次3人、3年次5人

表2) 既設学科等の志願者数の推移（令和4（2022）年度～令和6（2024）年度）

学部	学科	志願者数（人）			志願倍率（倍）			
		令和4	令和5	令和6	令和4	令和5	令和6	
連 係 学 部	看護福祉学部	看護学科	969	888	803	2.9	2.4	2.0
		福祉マネジメント学科	241	240	222	1.1	1.1	1.1
	心理科学部	臨床心理学科	347	385	349	1.1	1.1	1.1
	リハビリテーション 科学部	理学療法学科	475	448	589	2.3	2.0	2.4
		作業療法学科	440	432	357	1.6	1.6	1.3
		言語聴覚療法学科	275	253	284	1.1	1.2	1.3
	医療技術学部	臨床検査学科	348	332	425	2.2	2.0	2.4
薬学部	薬学科	704	602	606	1.2	1.1	1.1	
歯学部	歯学科	342	384	452	1.2	1.2	1.2	
全学	計	4,141	3,964	4,087	1.6	1.5	1.5	

収容定員充足率が100%を超えている看護福祉学部看護学科、リハビリテーション科学部理学療法学科及び作業療法学科、医療技術学部臨床検査学科については、入学者選抜について志願倍率が概ね1.5～2.4倍で推移し、安定して志願者数が確保できており、今後も安定的な学生確保が見込まれる。

その他、収容定員が未充足となっている学科のうち、看護福祉学部福祉マネジメント学科については、入学定員80人に対し志願者数は、令和4年度241人、令和5年度240人、令和6年度222人、志願倍率は平均して1.1倍となっている。特徴としては【資料4】に示されるよう、選抜区分ごとの定員に対し、総合型選抜及び学校推薦型選抜における入学者の割合が多く、一般選抜による入学者の割合が低い。また、志願者数に年度ごとのばらつきがみられ、全体の入学歩留率が低い（平均0.19）。また、本学科については、収容定員充足率が0.7倍未満となっている。従来から、独自奨学金の設置、学生募集にかかる広報活動の強化、同窓会との連携事業など、広範囲にわたってさまざまな方策を行ってきたが、現時点では未だ十分な結果が頭れるに至っていない。本学科は、本学の教育理念である「保健・医療・福祉の連携・統合教育の推進」の実現において重要な位置づけであり、引き続き、積極的に学生確保対策を実施し改善をはかる。なお、本学環の連係協力学部等であり、入学定員（80人）のうち10人が学環の入学定員を内数となることも、収容定員充足率の改善につながるものである。なお、北海道における福祉系学部学科の入学者数を見ると、入学定員未充足が多く状況であり、各大学とも入学者の確保に課題が窺える状況となっている【資料5】。

心理科学部臨床心理学科については、入学定員75人に対し志願者数は、令和4年度347人、令和5年度385人、令和6年度349人、志願倍率は平均して1.1倍となっている。特徴としては【資料4】に示されるよう、選抜区分ごとの定員に対し、総合型選抜及び学校推薦型選抜における入学者の割合が多く、一般選抜による入学者の割合が低い。また、志願者数に年度ごとのばらつきがみられ、全体の入学歩留率が低い（平均0.2）。入学定員の充足の向け、特に総合型選抜、学校推薦型選抜における受験生確保を強化するためのさまざまな取組を行っている。また、本学環の連係協力学部等であり、入学定員（75人）のうち5人が学環の入学定員を内数となることも、収容定員充足率の改善につながるものである。

リハビリテーション科学部言語聴覚療法学科については入学定員60人に対し志願者数は、令和4年度275人、令和5年度253人、令和6年度284人、志願倍率は平均して1.2倍となっている。特徴としては、前述した心理科学部臨床心理学科とほぼ同様の傾向がみられており、特に総合型選抜、学校推薦型選抜における受験生確保を強化するため、職業認知度の向上を軸として取り組みを行っている。

薬学部においては、入学定員160人に対し志願者数は、令和4年度704人、令和5年度602人、令和6年度606人、志願倍率は平均して1.1倍となっている。特徴としては、すべての選抜区分にわたって年度ごとの志願者数、入学歩留率にややばらつきがみられる状況である。受験生や保護者の最大の関心事である国家試験合格率のいっそうの向上や、医療系総合大学ならではの多職種連携教育や学生支援体制などで競合大学との差別化をはかるなど、積極的な広報活動を展開していく。

歯学部においては、入学定員80人に対し志願者数は、令和4年度342人、令和5年度384人、令和6年度452人、志願倍率は平均して1.2倍となっている。特徴としては薬学部と同様の傾向を示しており、入学定員充足に向けて薬学部同様に積極的な広報活動を展開していく。

以上のとおり既設組織については、入学定員の充足に向けてさまざまな方策を実施している。今後も、全学的に、積極的かつ継続してさまざまな施策を推進していくことで収容定員充足率の改善を行うことができると考えている。

【資料4】（別紙2）既設学科等の入学定員の充足状況（直近5年間）

【資料5】北海道における福祉系学部学科入学者定員充足率推移（2020年～2024年）

（3）学生確保の見通し

①学生確保に向けた具体的な取組と見込まれる効果

ア 既設組織における取組とその目標

既設学科等の学生募集のためのPR活動の過去の実績を【資料6（別紙3）】に示した。

オープンキャンパスは令和5年度入試対象として、令和4年度に5回実施した。全学部学科で合計2,623人が参加しており、うち1,258人が令和5年度受験対象者である。そのうち541人が受験し、405人が入学した（受験率43.0%、入学率32.2%）。また、令和6年度入試対象としては、令和5年度に前年同様に5回実施した。全学部学科で合計3,145人が参加しており、うち1,216人が令和6年度受験対象者である。そのうち482人が受験し、358人が入学した（受験率39.6%、入学率29.4%）。

資料請求者に対して大学案内等を発送している。令和4年度には全学部学科で合計26,168人に配付しており、うち15,280人が令和5年度受験対象者である。そのうち519人が受験し、358人が入学した（受験率3.4%、入学率2.3%）。また、令和5年度には全学部学科で合計25,505人に配付しており、うち16,570人が令和6年度受験対象者である。そのうち442人が受験し、293人が入学した（受験率2.7%、入学率1.8%）。

進学相談会等のガイダンスや模擬講義についても、積極的に参加している。令和4年度には全学部学科で合計3,312人に対して、本学の学びや入試制度などについて説明等を行った。そのうち1,421人が令和5年度受験対象者である。そのうち212人が受験し、178人が入学した（受験率14.9%、入学率12.5%）。また、令和5年度には全学部学科で合計3,514人に対し説明などをを行い、うち1,555人が令和6年度受験対象者である。そのうち276人が受験し、228人が入学した（受験率17.7%、入学率14.7%）。

その他、北海道、東北6県、沖縄県において高校訪問を行い、高校教員に対し、本学の学びや入試制度等について説明している。全国で約500校を対象校としており、訪問時期は春、夏、秋の時期に行うこととしており、高校ごとに年1～3回訪問することとしている。

なお、上記の取組における入学者数等には取組間での重複が生じている。

【資料6】（別紙3）既設学科等の学生募集のためのPR活動の過去の実績

イ 新設組織における取組とその目標

既設学科等における取組についての分析を踏まえ、本学環（入学定員15人）においても同様の取組を行い、受験者の確保をはかっていく。（2）（3）でも述べたとおり、主な学生募集地域である北海道を中心に、以下のような学生確保に向けた取組を行う。

オープンキャンパスでは、既設の学科等との違いを明確に示しつつ、本学環の特徴的な学びを体験できるプログラムを提供する。本学ならではの多職種連携教育を体感できるような学部横断型プログラム、在学生との交流プログラムなど入学後の学生生活や自身の成長イメージを高校生及び保護者に体感してもらえるような内容を実施する。令和7（2025）年度は、出張オープンキャンパスを含めて計6回を予定しており、本学環のプログラムへの参加者は合計約50人を見込んでいる。

例年の既卒組織のプロモーション活動に追加して、本学環独自の特設サイトの開設、リーフレットの作成、SNSをはじめとしたデジタル広告の配信、各進学媒体への特別広告の掲載など、積極的にプロモーション活動を実施する。資料請求者数は、全学部学科で過去2年の実績から受験対象者で年間15,000人程度を見込んでいる。

また、進学相談会、模擬講義においては、直接接触できる機会であることを十分に活用し、積極的かつ丁寧に本学環の学びの特徴などを説明していく。

その他、担当教員及び入試広報課員による高校訪問を実施する。併せて高等学校教員を対象とした説明会（オンライン等も活用）を実施する。本学環の学びの特徴や、求める人材像の具体として入学後に必要な基礎学力や主体性などについて、また育成する人材像の具体として卒業後の就労場所・キャリアパスなどについて丁寧に説明し、本学環について理解を深めてもらうことをねらいとする。

ウ 当該取組の実績の分析結果に基づく、新設組織での入学者の見込み数

イで前述したとおり、本学環では、既設の組織と同様の取組に加え、学環独自の取組も行っていく。

オープンキャンパスにおける入学者の見込み数は、本学環のプログラムへの参加者約50人のうち、受験対象者が約20人（40%）、入学者が約15人（30%）と見込んでいる。

進学相談会、模擬講義においては、本学環の説明対象者として年間100人を見込み、そのうち受験対象者が約15人（15%）、入学者が約13人（13%）として見込んでいる。

その他、各種プロモーション活動による大学案内などの資料請求や、高校訪問などで本学環の学びの特徴などを丁寧に周知していくことで、受験者の獲得をおこなっていく。

既設学科等の取組に加えて、以上の取組を行うことで、対象者の重複などを考慮しても、入学定員数（15人）は十分確保できる見込みである。

②競合校の状況分析（立地条件、養成人材、教育内容と方法の類似性と定員充足状況）

ア 競合校の選定理由と新設組織との比較分析、優位性

競合校として選定した大学は、「北海道情報大学 経営情報学部 システム情報学科（私立）」、「北海道科学大学 情報科学部 情報科学科（私立）」及び「公立千歳科学技術大学 理工学部 情報システム工学科（公立）」である。いずれの大学も北海道内に広く認知された大学であり、北海道情報大学は北海道江別市に、北海道科学大学は北海道札幌市に、公立千歳科学技術大学は北海道千歳市に所在しており、いずれも新設組織である本学環の主たる学生募集地域に所在している。

立地のみならず、本学環が育成する人材像及び高度なデータサイエンス・AI教育を実施するカリキュラム内容、教育内容に類似性が高い点、また、取得をめざす資格の類似性に着目している。文部科学省認定「数理データサイエンス・AI教育プログラム（MDASH）」、AI活用に関する資格などで類似性が高く、競合大学として妥当である【資料7】。

【資料7】本学環と競合大学における比較表（めざせる資格等）

表3に本学と競合大学の入学偏差値を示した。本学については、連係学部である既設の看護福祉学部、心理科学部、リハビリテーション科学部、医療技術学部を記載している。概ね競合大学と本学環の想定する学力層は同程度と考えることができ、学力の面からも競合大学の設定は妥当と考えられる。

表3) 本学及び競合大学の入学偏差値

	ベネッセ	河合塾
北海道情報大学 経営情報学部 システム情報学科	46	45
北海道科学大学 情報科学部 情報科学科	54	45
公立千歳科学技術大学 理工学部 情報システム工学科	52	42.5
北海道医療大学 看護福祉学部	51	35～45
北海道医療大学 心理科学部	44	35
北海道医療大学 リハビリテーション科学部	51	45
北海道医療大学 医療技術学部	55	45

出典：Benesse マナビジョンサイト、河合塾kei-net を基に作成

【競合校との比較分析】

本学環の最大の強みは、多職種連携が日常的に行われている医療系総合大学の環境を活かし、「データサイエンス力」と「医療現場とのコミュニケーション力」の両方を実践的に教育する点にある。全国でも例を見ない学部・学科横断の教育体制により、以下のような独自の教育を提供する。

1) 多職種連携・学環型教育による実践力の育成

医療現場のリアルな課題解決を出発点とし、学部横断的なケーススタディやグループ学修を重視する。多様な専門職と協働しながらデータサイエンスの知識と技能を実践的に活用する力、現場の課題に即した実践的な問題解決力を醸成する。

2) 高度なデータサイエンス・AI教育と先端的ICT環境

文部科学省認定「数理データサイエンス・AI教育プログラム（MDASH）」の応用基礎レベルプラスに選定（医療技術学部）されたカリキュラムを基盤とし、ビッグデータ解析、深層学習、生成AIを含む先端的なAI活用スキルを体系的に修得できる。また、クラフトAIをはじめとする独自開発のAI教材・オンラインeラーニング環境のもと、学生の自学自修を支援する。

3) 医療人としての倫理観と患者中心の視点の重視

医療DX時代におけるデータ利活用の推進とともに、医療倫理や生命倫理、患者中心主義、多様な価値観の尊重を重視した教育を実施する。医療現場におけるAI活用の課題やリスクにも対応できる倫理観と、患者・家族・医療者との調和的な意思決定を支えるコミュニケーション力を醸成する。

4) 多様な資格取得と将来キャリアの幅広さ

情報・通信、統計、AI・データサイエンス分野の認定資格（ITパスポート、統計検定、Python認定試験、G検定・E資格等）に挑戦できる科目体系を整備し、医療分野だけでなく幅広い産業・社会分野でも活躍できる人材を育成する。

5) 独自のAI・教育支援システムと産学官連携

本学で開発したクラフトAI等の教育支援技術を積極的に教育現場へ導入し、学生の学修履歴分析や個別最適化学修も支援する。さらに、医療分野に強みを持つベンチャーや企業、自治体等と連携した体験実習、特別講師による実践的講義を豊富に設け、学外での実践力も身につくことができる。

6) 少人数教育

1学年15人定員の少人数体制を生かし、教員によるきめ細やかな教育体制をとることも大きな特徴である。また、ゼミ方式で学ぶ教育体制によって、上の学年と下の学年、いわゆる上下の関係をつなぐことにより教育効果をいっそう向上させる取組を行う。

以上のように、医療系総合大学としての多職種連携教育を生かし、データサイエンス力と医療現場とのコミュニケーション力を融合した独自の教育により他大学との差別化を図ることで、競合大学に対する優位性を確保できると考えている。また、少人数教育により、学生一人ひとりに対するきめ細やかな指導を実現し、就職率や学生満足度の向上を目指していく。

入学者選抜の時期について表4に示した。概ね競合大学と同じ時期に行う予定であるが、「総合型選抜」については年4回（10月、12月、2月、3月）、「一般選抜」については、前期日程を3日間実施するなど、競合大学に比べて、受験機会を多く設けることとしている。

表4) 本学及び競合大学の入学者選抜の時期（令和8（2026）年度）

	総合型選抜	学校推薦型選抜	一般選抜
北海道情報大学	A日程：9月20日(土) 9月21日(日) B日程：10月18日(土) 10月19日(日)	I期：11月16日(日) II期：1月25日(日)	前期：2月2日(月) 2月3日(火) 後期：3月6日(金)
北海道科学大学	9月13日(土)・10月14日(土)・10月18日(土) ※3日間参加必須	11月23日(日)	前期：2月1日(日) 2月2日(月) 後期：3月7日(土)
公立千歳科学技術大学	10月19日(日)	12月6日(土)・12月7日(日)	前期：2月25日(水) 中期：3月8日(日)
北海道医療大学	I期：10月19日(日) II期：12月7日(日) III期：1月31日(土) IV期：3月19日(木)	11月23日(日)	前期：1月29日(木) 1月30日(金) 1月31日(土) 後期：3月6日(金)

出典：各大学のホームページより作成

また、経済的支援策として本学独自の「東日本学園奨学金」制度を設けている。年額50万円の貸与型奨学金で、多くの学生が利用しやすいように、無利子貸与、他奨学金との併用可としており、卒業後に返還が開始となる奨学金制度である。令和6年度は全学で96人が利用しており、本学環においても利用者が見込まれる。

就職支援として、キャリアコンサルタントの資格を有したキャリアアドバイザーが常駐している。低学年から実施されるキャリアガイダンスをはじめとして、エントリーシートの記入方法から面接練習、就職・進学などキャリアデザインに関して幅広く対応を行っている。

その他、本学独自の取組として、本学園の後援会（北海道医療大学後援会）の主催により、北海道内外の各地区で「地区別懇談会」を実施している。保護者の方々に対して大学の動向やニュースの周知、学科等の教員と保護者の直接面談の機会を提供するなどの取組を行っている。

イ 競合校の入学志願動向等

データサイエンス分野に関連する大学の入学志願動向について、全国的な動向を【資料8-1】に示した。全国的に志願倍率が高く、入学定員充足率が100%を超える大学が多数存在しており、データサイエンス分野への高校生の関心の高さが反映された結果となっている。

【資料8-2】は、上記のアで選定した競合大学の志願者数と入学者数である。「北海道科学大学 情報科学部 情報科学科」については、R7（2025）年4月開設のため、R7（2025）年度の入学者選抜の結果について記載している。また「北海道情報大学」及び「公立千歳科学技術大学」については学科単位の結果が公表されていないため、学部合計の数値を記載している。

いずれの大学も安定して高い入学定員充足率となっており、全国的な動向と同じく、北海道内でもデータサイエンス分野は十分な需要があると考えられ、本学環の入学定員を充足できると判断できる。

【資料8】データサイエンス系大学 入学者選抜結果一覧

ウ 新設組織において定員を充足できる根拠等（競合校定員未充足の場合のみ）

該当しない。

エ 学生納付金等の金額設定の理由

本学環における学生納付金については、調査【資料9】を行い、検討の結果、以下のとおり設定した。私立大学として継続的な学校運営を行うにあたり必要な財務計画及び保護者等への負担とならないよう充分に配慮している。

- ・入学金：300,000円
- ・授業料：初年次900,000円（年額）、2年次以降1,200,000円（年額）

入学金、授業料ともに調査対象とした私立大学の平均額を下回っており、適切な金額であると考える。また、競合の公立大学との差額については、前述の奨学金制度等によって一定程度、縮小を図ることができると考えている。このことから本学環の学生納付金は妥当な金額設定であると判断している。

【資料9】データサイエンス系私立大学 学納金一覧

③先行事例分析

該当しない。

④学生確保に関するアンケート調査

競合大学との入学志願状況等の比較は【資料8】のとおりである。全国的にデジタル人材の育成が求められており、競合校に設定した3大学では、入学定員を十分に満たし、入学定員充足率も100%を超えていることから、本学環の受験生ニーズも十分にあると考えられる。本学環の設置構想に関して、高校生からの進学ニーズを把握するため、学生確保に関するアンケート調査「北海道医療大学 臨床データサイエンス学環（仮称、設置構想中）に関するアンケート」を行った【資料10】【資料11】。

アンケート調査の概要は以下のとおりである。なお調査対象は、北海道に所在している高等学校、またはスクーリング拠点がある通信制高等学校で、過去本学への受験・進学実績がある高等学校としている。

		調査①	調査②
調査対象		株式会社リクルートが運営する スタディサプリ会員 (高校3年生)	オープンキャンパス等参加者 (高校3年生・既卒者)
調査エリア		北海道	—
調査方法		郵送	オープンキャンパス等イベントで 配付・回収
調査 対象数	依頼数	8,000人	—
	有効回収数	118人	293人
調査時期		2025年6月16日（月）～ 2025年7月14日（月）	

アンケート調査の結果、本学環への受験・入学意向については、第1志望として受験し「入学する」意向の高校生が19人（有効回答数の4.6%）、第2志望として受験し「上位志望校が不合格の場合に入学する」意向の高校生が11人（有効回答数の2.7%）、第3志望以降として受験し「上位志望校が不合格の場合に入学する」意向の高校生が41人（有効回答数の10.0%）となった。

第1志望者（19人）が入学定員（15人）を上回っており、入学定員を充足する可能性が高いと考えられる一方、第2志望以下の受験者については条件付きの入学意向となっている（52人）。今後、オープンキャンパスや進学相談会を通じて、本学環の認知度向上や学びについての魅力ある情報発信など積極的な広報活動を継続し、第2志望以下から第1志望への転換につなげていきたい。より多くの進学希望者の確保によって、安定した入学定員充足を実現していく。

【資料10】北海道医療大学臨床データサイエンス学環（仮称、設置構想中）に関するアンケート結果
(高校生対象)

【資料11】調査の対象とした高校一覧

【資料12】高校生対象アンケート調査票

【資料13】高校生対象アンケート調査に提示した新設組織に関する資料

⑤人材需要に関するアンケート調査等

本学環の設置構想に関して、企業からの採用ニーズを把握するため、採用意向調査「北海道医療大学大学臨床データサイエンス学環（仮称、構想中）に関するアンケート」を行った【資料14】。

アンケート調査の概要は以下のとおりである。

調査対象		北海道に拠点・支店がある企業・団体で 医療・福祉職以外の一般職の採用意向が見込まれる企業等
調査方法		郵送・メール・対面により配付・回収
調査 対象数	依頼数	75企業・団体等
	有効回収数	42企業・団体等
調査時期		2025年6月16日（月）～ 2025年7月10日（木）

アンケート調査の結果、本学環の卒業生について、「採用対象になる」と回答した企業等が6団体（有効回答数の14.3%）、「おそらく採用対象になる」と回答した企業等が10団体（有効回答数の23.8%）、「採用対象として検討しても良い」と回答した企業等が16団体（有効回答数の38.1%）となった。そのなかで採用人数の見込数については、1人と回答した企業等が9団体、2人と回答した企業等が5団体、3人と回答した企業等が1団体、5～9人と回答した企業等が1団体、未定が16団体となっており、合計すると未定団体を除いても27人～31人の採用が見込まれる。これは本学環の入学定員を上回る人数となっている。

また、本学環の卒業生に望む能力として調査したところ、ジェネリックスキルとして（汎用的能力）のなかでは、「課題発見力・課題解決力」と回答した企業等が31団体（有効回答数の96.9%）で最も多く、次いで「コミュニケーション力・チームワーク」と回答した企業等が多かった（30団体、有効回答数の93.8%）。専門分野の知識・技能として臨む能力としては、「生成AI活用」と回答した企業等が20団体（有効回答数の62.5%）で最も多く、次いで「AI・機械学習活用（17団体、有効回答数の53.1%）」、「データサイエンス（14団体、有効回答数の43.8%）」、「ICT活用（14団体、有効回答数の43.8%）」と続いている。これらの能力は、本学環で育成する人材像そのものであり、企業のニーズに本学の学びが合致していることが示されている。

以上のことから、本学環が育成する人材に対する採用意向は一定数存在している。今後、幅広い分野でより多くの企業等に対して、本学環の学びの内容、卒業生が修得するスキルについて情報を積極的、継続的に発信していくことで、より安定した人材需要につながっていくと考えられる。

【資料14】北海道医療大学臨床データサイエンス学環（仮称、設置構想中）に関するアンケート結果 (企業対象)

【資料15】企業対象アンケート調査票

(4) 新設組織の定員設定の理由

北海道及び全国の中長期的な18歳人口は減少傾向にあるものの、本学環のめざす人材育成の分野においては、過去、安定した志願者数と入学定員充足率を維持している状況である。競合大学における入学定員充足率からも同系の分野は高いニーズが存在していると考えられる。

学生確保に向けた具体的な取組とその効果については、既設の学科等において実施しているオープンキャンパス、大学案内の発送、ガイダンス及び高校訪問等によって、多くの受験生と接触することで受験率及び入学率に対して十分に成果をあげている。本学環における学生募集のためのPR活動についても、既設学科等と同様の取組を実施した場合、入学定員（15人）を十分確保できる見込みである。

また、高校生からの進学ニーズを把握するために行った学生確保に関するアンケート調査の結果においても、「第一志望で受験をする」かつ「入学する」と回答した高校生は19人おり、入学定員を上回る回答を得られたことから、十分に定員を充足することが予測できる。なお、企業からの採用ニーズを把握するために実施したアンケート調査でも、本学環の卒業生を採用する見込みのある企業と予定人数は入学定員を上回っており、一定の人材需要があることが分かる。

以上の理由から、主な学生募集地域である北海道を中心に本学環の入学生を安定的に確保することは十分に可能であり、企業における人材需要もあることから、入学定員数（15人）は合理的であると考えられる。